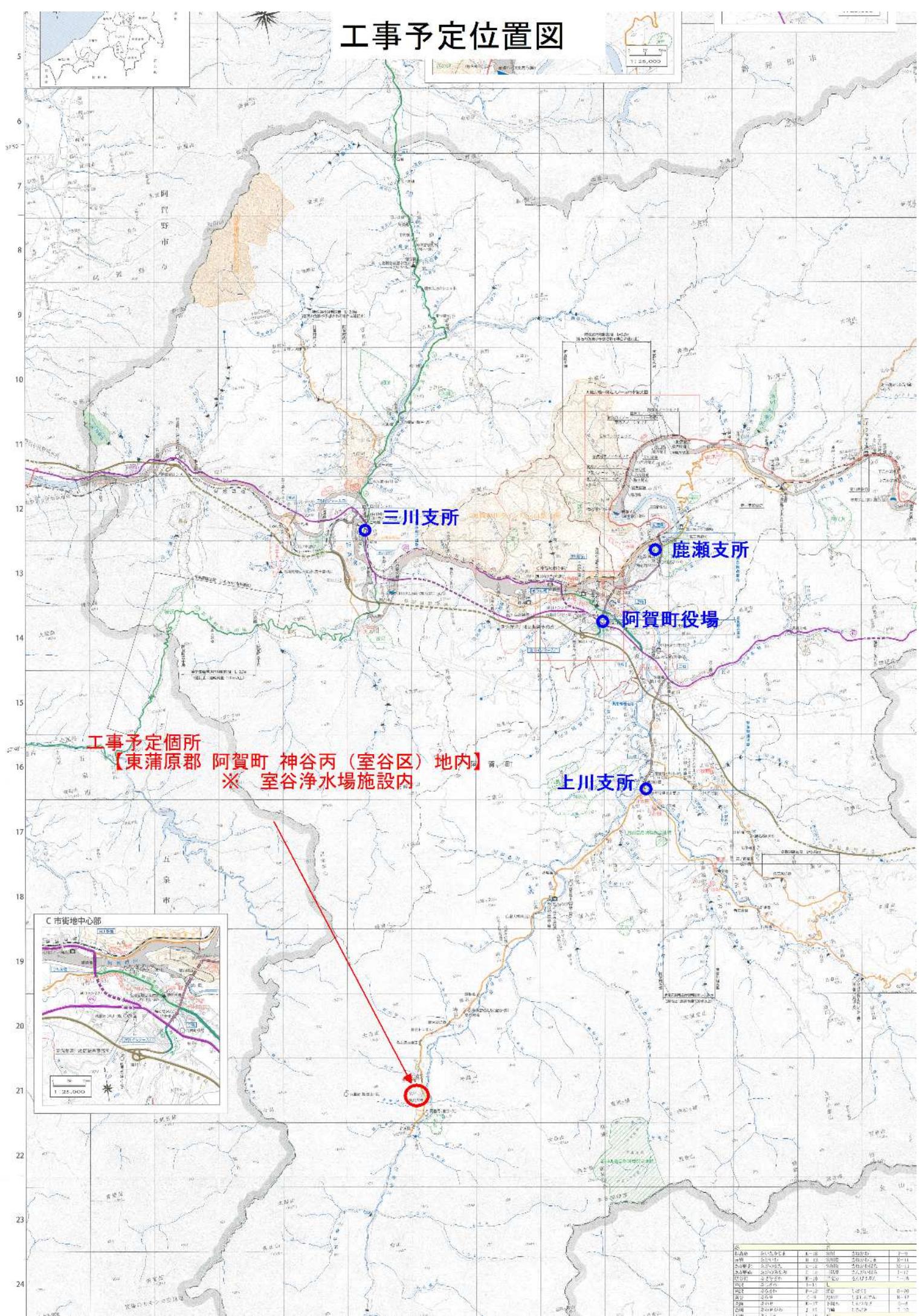


# 工事設計書

						課長			課長補佐		主任・係長			審査者			検算		設計者	
--	--	--	--	--	--	----	--	--	------	--	-------	--	--	-----	--	--	----	--	-----	--

工事名称	室谷水道施設 済水場急速濾過機ろ材等入替工事	工事番号	R7 室谷簡水第2号
工事費総額	¥ [REDACTED]		
(内訳) 工事価格	¥ [REDACTED]		
消費税	¥ [REDACTED]		
発注者名	阿賀町水道事業 阿賀町長 神田 一秋	工事種類	水道工事(水道実務必携基準)
工 期		工種区分	構造物工事(済水場等)
工事場所	阿賀町 神谷丙(室谷区) 地内		
場所名称	阿賀町水道事業施設 室谷済水場		
工事概要	当初設計		変更設計
	急速濾過機ろ材入替(2基分)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンスラサイト 有効径 1.2mm (均等係数 1.5以下) 層厚200mm V=0.31m<sup>3</sup></li> <li>・マンガン砂 有効径 0.6mm (均等係数 1.5以下) ※次亜浸漬処理品ボリシーム相当品 層厚600mm V=0.94m<sup>3</sup></li> <li>・支持砂利(水道用濾過砂利) 2-4mm 層厚75mm V=0.12m<sup>3</sup></li> <li>・支持砂利(水道用濾過砂利) 4-6mm 層厚75mm V=0.12m<sup>3</sup></li> <li>・支持砂利(水道用濾過砂利) 6-15mm 層厚75mm V=0.12m<sup>3</sup></li> <li>・支持砂利(水道用濾過砂利) 15-25mm 層厚75mm V=0.12m<sup>3</sup></li> </ul>		

# 工事予定位置図



## 工事仕様総括

本工事は「新潟県土木工事標準仕様書」及び添付の「特記仕様書等」により施工すること。

また、配水管等の施工については、日本水道協会が発行する「水道工事標準仕様書」によるものとする。

本工事に係る工事書類については、新潟県土木部の【工事書類作成マニュアル】に準じて作成すること。

### 施工条件総括表

下記項目、事項のうち○印欄は工事施工にあたって制約等を受けることになるので明示する。

なお、明示事項に変更が生じた場合、明示されていない制約等が発生した時は、発注者と協議し、適切な措置を講ずるものとする。

明示項目	施工条件
I 工程関係	<p>1. 関連する別途工事あり 【室谷水道施設 済水場更新工事】</p> <p>2. 施工時期、時間、方法の制限あり ・時 期： ・時 間： ・方 法：</p> <p>3. 関係機関協議による工程条件あり ・協議内容： ・完了予定時期：</p> <p>4. その他</p>
II 用地関係	<p>1. 工事用地等の未処理部分あり ・処理見込時期： ・区 間：</p> <p>2. 仮設ヤードの指定あり ・場 所： ・期 間：</p> <p>3. その他</p>
III 公害対策関係	<p>1. 公害防止の制限あり (騒音・振動、排出ガス、粉じん、水質等) ・施工方法： ・作業時間：</p> <p>2. 家屋等の調査の必要性あり ・方 法： ・範 囲：</p> <p>3. その他 ・機械の仕様は排出ガス対策型とする。</p>
IV 安全対策関係	<p>1. 交通安全施設等の指定あり ・交通誘導員 ・その他施設：</p> <p>2. 近接作業制限あり (鉄道、ガス、水道、電気、電話等) ・内 容： ・工法制限： ・作業時間制限：</p> <p>3. 発破作業あり ・保安設備及び保安要員： ・防護工： ・作業時間制限：</p> <p>4. 防護施設 (落石、雪崩、土砂崩壊等) ・内 容：</p> <p>5. その他</p>

明示項目	施工条件
V 工事用道路関係  該当する事項無	<p>1. 一般道路を搬入路としての制限あり        • 搬入経路：        • 期間：        • 使用後の措置：</p> <p>2. 一般道路の占用        • 期間：        • 規制条件：        • 時間制限：</p> <p>3. 仮設道路設置        • 工法指定の有無：        • 用地関係：        • 安全施設：        • 工事完了後の「存置」または「撤去」</p> <p>4. その他</p>
VI 仮設備関係  該当する事項無	<p>1. 仮設備の指定あり</p> <p>2. 仮設備の条件指定あり</p> <p>3. 仮設備の転用、兼用あり        • 工種：        • 内容：</p> <p>4. イメージアップあり        • 内容：</p> <p>5. その他</p>
VII 残土・産業廃棄物関係	別紙「建設副産物特記仕様書」のとおり
VIII 工事支障  該当する事項無	<p>1. 占用支障物件あり（電気、電話、水道、ガス等）        • 内容：        • 移設、撤去、防護方法等：        • 時期：</p> <p>2. 占用物件重複施工あり        • 内容：</p> <p>3. その他</p>
IX 排水工 (濁水処理含む)	1. 濁水、湧水処理の特別な対策あり • 内容：
X 薬液注入関係	1. 薬液注入工法あり • 別紙条件明示による
XI その他	<p>1. 現場発生材あり        • 品名：        • 納入場所：</p> <p>2. 支給品及び貸与品あり        • 品名：        • 納入場所：</p> <p>3. 品質証明の対象工事</p> <p>4. その他        • 施工計画書を提出すること</p>

明示項目	施工条件				
X II 排出ガス対策型建設機械	<p>1. 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付建設省経機発第249号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。</p> <p>排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、或いはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着（黒煙浄化装置付）することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。</p> <p>排出ガス対策型建設機械、或いは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機種</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           一般工事用建設機械           <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックホウ</li> <li>・トラクタショベル（車輪式）</li> <li>・ブルドーザ</li> <li>・発動発電機（可搬式）</li> <li>・空気圧縮機（可搬式）</li> <li>・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの               <ul style="list-style-type: none"> <li>油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーナ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機</li> <li>・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ</li> <li>・ホイールクレーン</li> </ul> </li> </ul> </td><td>ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。</td></tr> </tbody> </table>	機種	備考	一般工事用建設機械 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックホウ</li> <li>・トラクタショベル（車輪式）</li> <li>・ブルドーザ</li> <li>・発動発電機（可搬式）</li> <li>・空気圧縮機（可搬式）</li> <li>・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの               <ul style="list-style-type: none"> <li>油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーナ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機</li> <li>・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ</li> <li>・ホイールクレーン</li> </ul> </li> </ul>	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。
機種	備考				
一般工事用建設機械 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックホウ</li> <li>・トラクタショベル（車輪式）</li> <li>・ブルドーザ</li> <li>・発動発電機（可搬式）</li> <li>・空気圧縮機（可搬式）</li> <li>・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの               <ul style="list-style-type: none"> <li>油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーナ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機</li> <li>・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ</li> <li>・ホイールクレーン</li> </ul> </li> </ul>	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。				
X III 施工方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工条件総括表、図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問解答書に特別に定める場合を除き、仮設、施工方法、その他工事目的物を完成するために必要な手段は、請負者の責任において定める。（建設工事請負基準約款1条第3項による）</li> </ul>				

## 特記仕様書

### 1-1. 概要

室谷浄水場の急速ろ過機に充填されている特殊マンガン砂が老朽化しているので、新たにマンガン砂に更新する。

○ 使用する材料については日本水道協会規格（JWWA 規格）または、同等品とする。

○ 使用水量及び形状等については、以下のとおりとする。

#### （1）支持砂利

粒 径 :  $\phi 2\text{mm} \sim \phi 25\text{mm}$

層 厚 : 300mm

数 量 : 240L 程度/槽

#### （2）マンガン砂

有 径 径 : 0.6mm

均等係数 : 1.5 以下

層 厚 : 600mm

数 量 : 480L 程度/槽

#### （3）アンスラサイト

有 径 径 : 1.2mm

均等係数 : 1.5 以下

層 厚 : 200mm

数 量 : 160L 程度/槽

#### （4）表洗ノズル

材 質 : 樹脂製

型 式 : 25A ネジ込取付

数 量 : 4 個/槽

#### （5）集水ストレーナー

材 質 : 樹脂製

型 式 : スリット式ネジ込取付

数 量 : 24 個/槽

## ○ 作業内容

- ・ 既設ろ材を撤去し、新たに新規マンガン砂を充填する。
- ・ 1基ごとに作業を行うものとする。
- ・ 試運転については初期逆洗、ろ材活性化を行う。
- ・ 現場にて簡易水質分析を行う。

対象項目は下記で監督と協議の上、内容を決定する。

濁度、色度、残塩、鉄、マンガン、pH

※ 手動、又は自動モードでの運転を行い、各設備、機器が正常に動作する事を確認する。

以上

## 別紙2

### 「週休2日適用工事(現場閉所)」（令和7年4月）特記仕様書

本工事は、受注者が工事着手前に発注者に対して月単位の週休2日（現場閉所）に取り組む旨を協議した上で工事を実施する「週休2日適用工事(現場閉所)」受注者希望方式の対象案件である。なお、通期の週休2日（現場閉所）について、受注者は協議にかかわらず取り組むものとする。

通期の4週8休以上（現場閉所率28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態）を前提に、補正対象経費に通期の週休2日補正係数を乗じて予定価格を作成している。

受注者は、「「週休2日適用工事(現場閉所)」（令和6年10月）実施要領」に基づき、月単位の週休2日（現場閉所）の取組の希望の有無を工事着手前に、監督員と打合せ簿により協議するものとする。

現場閉所の達成状況より、月単位を希望して月単位の4週8休以上を達成した場合は、月単位の週休2日補正係数に設計変更する。月単位を希望して月単位の4週8休に満たない場合、月単位を希望せずに月単位の4週8休以上を達成した場合は、通期の週休2日補正係数のままでする。通期の4週8休に満たない場合は、補正分を減額変更するものとする。

#### （参考）

県要領の電子データは、新潟県ホームページから入手できるので参考とすること。

（<https://www.pref.niigata.lg.jp/gijutsu/1356857978573.html>）

## 建設副産物特記仕様書

### 1. 再生材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規 格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備 考
無し				

### 2. 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備 考
無し				

### 3. 建設発生土の処理（再利用）

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名/施設名称	無し			
工事場所/施設所在地				
連絡先				
受入時間				
受入費用				
仮置場所の有無				
備考				

### 4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。

搬出する廃棄物名				
処理施設名称	阿賀町下水道課調査単価として公表しています。			
施設所在地	※処分地等の変更については契約変更の対象とします。			
連絡先				
受入時間				
受入費用				
備考				

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5. 建設リサイクル法の対象工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化が完了した時は、法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

6. 自ら産業廃棄物を運搬・処理する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

### 7. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定によりがたい場合は、速やかに発注者に報告し、協議すること。

## 参考資料

この「参考資料」は、入札参加者の適性かつ迅速な見積に資するための資料であり、建設工事請負基準約款第1条にいう設計図書ではない。従って「参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

# 諸経費

[工事種類]	]	水道工事(水道実務必携基準)	-----
[工種区分]	]	構造物工事(浄水場等)	-----
[経費年度]	]	2025	-----
[共通仮設費補正]	]	1.3	----- 山間僻地及び離島, 小数第4位止め, 四捨五入
[共通仮設費補正(週休)]	]	1.02	----- 週休2日(通期), 小数第4位止め, 四捨五入
[現場環境改善費区分]	]	-----	----- 計算しない
[共通仮設費補正(被災地)]	]	1	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(被災地)]	]	1	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(工事場所)]	]	1	----- 山間僻地及び離島, 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(週休)]	]	1.03	----- 週休2日(通期), 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(緊急工事)]	]	-----	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(冬期)]	]	-----	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[現場管理費補正(真夏日)]	]	-----	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[一般管理費補正(前払金支出割合)]	]	1	----- 補正しない, 小数第4位止め, 四捨五入
[一般管理費補正(契約保証)]	]	0.0004	----- 金銭的保証を必要, 小数第4位止め, 四捨五入
[直工に含まれる管材費]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[支給品に含まれる管材費]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[対象管材費 れる管材費額)]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て, (経費計算対象に含ま
[準備費に含まれる処分費]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[対象処分費 れる処分費額)]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て, (経費計算対象に含ま
[機器費 器費)]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て, (下水工事機械設備機
[桟等購入費]	]	[REDACTED]	----- 自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て

## 諸経費

[支給品等(一般材料費)]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[支給品等(別途製作の制作費)]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[支給品等(電力)]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[無償貸付機械評価額]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[事業損失防止施設費]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[鋼橋門扉等工場原価]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[直工に含まれる現場発生品]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[現場発生品 発生品を含む)	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て, (直工に含まれる現場
[支給品等(共通仮設費)]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[現場管理費対象外(共通仮設費)]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[直接工事費]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[共通仮設費率額]	-----	-----	<u>自動計算, 整数4位(1千円)止め, 切り捨て</u>
[共通仮設費対象額]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[共通仮設費率]	10.13%	-----	<u>自動計算, 小数第4位止め, 四捨五入</u>
[現場環境改善費率額]	-----	-----	計算しない
[現場環境改善費対象額]	-----	-----	計算しない
[現場環境改善費率]	-----	-----	計算しない
[共通仮設費積上額]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[共通仮設費計]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[純工事費]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[現場管理費率額]	-----	-----	<u>自動計算, 整数4位(1千円)止め, 切り捨て</u>
[現場管理費対象額]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[現場管理費率]	33.7%	-----	<u>自動計算, 小数第4位止め, 四捨五入</u>
[現場管理費積上額]	-----	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[現場管理費計]	-----	-----	<u>自動計算, 整数4位(1千円)止め, 切り捨て</u>

## 諸経費

[工事原価	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[一般管理費率額	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[ 一般管理費対象額	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[ 一般管理費率	]	[REDACTED] %	-----	<u>自動計算, 小数第4位止め, 四捨五入</u>
[契約保証費	]	[REDACTED]	-----	一般管理費等に含まれる, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[一般管理費調整額	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[一般管理費等計	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[その他工事費用	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[工事価格	]	[REDACTED]	-----	<u>自動計算, 整数5位(1万円)止め, 切り捨て</u>
[消費税	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[ 消費税率	]	10%	-----	自動計算, 小数第2位止め, 四捨五入
[工事費計	]	[REDACTED]	-----	自動計算, 整数1位(1円)止め, 切り捨て
[工事落札額	]	[REDACTED]	-----	計算しない
[請負比率	]	[REDACTED]	-----	計算しない
[落札額消費税	]	[REDACTED]	-----	計算しない
[工事請負額	]	[REDACTED]	-----	計算しない

# 諸経費計算根拠

## ■経費区分

【工事区分】 = 構造物工事(浄水場等)

【経費年度】 = 2025

## ■直接工事費など

【直接工事費】 = [REDACTED]

【対象管材費】 = (〈直工に含まれる管材費〉 + 〈支給品に含まれる管材費〉) \* 0.5

$$= ([REDACTED] + 0) * 0.5$$

$$= [REDACTED]$$

【処分費合計】 = 〈直工に含まれる処分費〉 + 〈準備費に含まれる処分費〉

$$= [REDACTED] + 0$$

$$= [REDACTED]$$

【処分費上限 1】 = (〈直接工事費〉 - 〈直工に含まれる管材費〉 + 〈対象管材費〉) \* 0.03

$$= ([REDACTED] - [REDACTED] + [REDACTED]) * 0.03$$

$$= [REDACTED]$$

【処分費上限 2】 = 30,000,000

【対象処分費】 = [REDACTED] (処分費上限 1 を超えたため、〈処分費上限 1〉を率計算の対象とする)

【処分費超過額】 = 〈処分費合計〉 - 〈対象処分費〉

$$= [REDACTED] - [REDACTED]$$

$$= [REDACTED]$$

※処分費超過額=共通仮設費率対象額(直接工事費 - (管材費×0.5))の3%を超える処分費の金額

# 諸経費計算根拠

## ■共通仮設費

【共通仮設費対象額】 = 〈直接工事費〉 - 〈直工に含まれる管材費〉 + 〈対象管材費〉 - 〈処分費超過額〉

$$= \boxed{\quad} - \boxed{\quad} + \boxed{\quad} - \boxed{\quad}$$
$$= \boxed{\quad}$$

【補正前共通仮設費率】 = 最低率(対象額  $\boxed{\quad}$  <= 10,000,000 のため)

$$= \boxed{\quad}$$

【共通仮設費率】 = (補正前共通仮設費率) \* 〈共通仮設費補正〉 \* 〈週休補正〉

$$= (0.0764 * 1.3) * 1.02$$
$$= 0.1013$$

【共通仮設費率額】 = 〈共通仮設費対象額〉 \* 〈共通仮設費率〉

$$= \boxed{\quad} * 0.1013$$
$$= \boxed{\quad}$$

【共通仮設費計】 = 〈共通仮設費率額〉 + 〈共通仮設費積上額〉 + 〈現場環境改善費率額〉

$$= \boxed{\quad} + 0 + 0$$
$$= \boxed{\quad}$$

## ■現場管理費

【純工事費】 = 〈直接工事費〉 + 〈共通仮設費計〉

$$= \boxed{\quad} + \boxed{\quad}$$
$$= \boxed{\quad}$$

## 諸経費計算根拠

【現場管理費対象額】 = 〈純工事費〉 - 〈直工に含まれる管材費〉 + 〈対象管材費〉 - 〈処分費超過額〉

$$= \text{[REDACTED]} - \text{[REDACTED]} + \text{[REDACTED]} - \text{[REDACTED]}$$

$$= \text{[REDACTED]}$$

【補正前現場管理費率】 = 最低率(対象額  $\text{[REDACTED]} \leq 10,000,000$  のため)

$$= 0.3272$$

【現場管理費率】 = (〈補正前現場管理費率〉 \* 〈工事場所補正〉 + 〈緊急工事補正〉 + 〈冬期補正〉 + 〈真夏日補正〉) \* 〈週休補正〉

$$= (0.3272 * 1 + 0 + 0 + 0) * 1.03$$

$$= 0.337$$

【現場管理費率額】 = 〈現場管理費対象額〉 \* 〈現場管理費率〉

$$= \text{[REDACTED]} * 0.337$$

$$= \text{[REDACTED]}$$

【現場管理費積上額】 = 0

【現場管理費計】 = 〈現場管理費率額〉 + 〈現場管理費積上額〉

$$= \text{[REDACTED]} + 0$$

$$= \text{[REDACTED]}$$

■一般管理費

【一般管理費対象額】 = 〈工事原価〉 - 〈処分費超過額〉

$$= \text{[REDACTED]} - \text{[REDACTED]}$$

$$= \text{[REDACTED]}$$

## 諸経費計算根拠

$$\begin{aligned}\text{【補正前一般管理費率】} &= (-4.97802 * \log(\text{一般管理費対象額}) + 56.92101) * 0.01 \\ &= (-4.97802 * \log(\text{[REDACTED]}) + 56.92101) * 0.01 \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{【一般管理費率】} &= \text{【補正前一般管理費率】} * \text{【一般管理費補正前払金支出割合補正】} + \text{【一般管理費補正契約保証補正】} \\ &= \text{[REDACTED]} * 1 + 0.0004 \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{【一般管理費率額】} &= \text{【一般管理費対象額】} * \text{【一般管理費率】} \\ &= \text{[REDACTED]} * 0.2326 \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

$$\text{【その他工事費用】} = 0$$

$$\begin{aligned}\text{【一般管理費等計】} &= \text{【一般管理費率額】} + \text{【一般管理費調整額】} \\ &= \text{[REDACTED]} + (\text{[REDACTED]}) \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

### ■工事価格

$$\begin{aligned}\text{【工事価格】} &= \text{【工事原価】} + \text{【一般管理費等計】} + \text{【その他工事費用】} \\ &= \text{[REDACTED]} + \text{[REDACTED]} + 0 \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{【消費税】} &= \text{【工事価格】} * \text{【消費税率】} \\ &= \text{[REDACTED]} * 0.1 \\ &= \text{[REDACTED]}\end{aligned}$$

## 諸経費計算根拠

【工事費計】 = 〈工事価格〉 + 〈消費税〉

= [REDACTED] + [REDACTED]

= [REDACTED]

# 契約情報総括表

		当初	第1回変更(増・減)	第2回変更(増・減)	第3回変更(増・減)			
積算段階	A 積算工事価格	[REDACTED]						
	B 消費税相当額	[REDACTED]						
	C 積算額	[REDACTED]						
契約段階	D 工事価格	0						
	E 消費税相当額	0						
	F 契約額	0						
	G 増減							
請負比率	H	$B=A \times 0.1$ $C=A+B$ $D=A$ に対する応札額 $E=D \times 0.1$ $F=D+E$	$B1=A1 \times 0.1$ $C1=A1+B1$ $D1=A1$ に対する応札額 $E1=D1 \times 0.1$ $F1=D1+E1$	$B2=A2 \times 0.1$ $C2=A2+B2$ $D2=A2$ に対する応札額 $E2=D2 \times 0.1$ $F2=D2+E2$	$B3=A3 \times 0.1$ $C3=A3+B3$ $D3=A3$ に対する応札額 $E3=D3 \times 0.1$ $F3=D3+E3$			
注)			D 1 算 出	= A1 × H = × 0 =	D 2 算 出	= A2 × H = × 0 =	D 3 算 出	= A3 × H = × 0 =
積算工事価格：落札率を乗じず、消費税等相当額を含まない額。 積算額：積算工事価格に消費税相当額を加算した額。 工事価格：応札額、または積算工事価格に落札率を乗じた額で、消費税相当額を含まない。 契約額：工事価格に消費税等相当額を加算した額。								

## 総括情報表

事務所名					
設計書区分/番号					
変更回数					
事業名					
適用単価区分					
適用単価地区	020 津川 (15 新潟県)	※全項目見積による単価としています。			
単価適用日	2025-09-20	※全項目見積による単価としています。			
諸経費体系					
設計書名					
	当世代	前世代			
前払率	補正なし				
工事種類	水道工事(水道実務必携基準)				
工種区分	構造物工事(浄水場等)				
施工地域・工事場所区分	山間僻地及び離島				
現場環境改善費補正	金錢的補償を必要				
一般管理費補正(契約保証)					
緊急工事区分による補正	補正なし				
豪雪補正					

# 本工事内訳書

頁0004

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
*** その他工事費 ***					
ろ材更新	1	式		■■■■■	管: ■■■■■
輸送費	1	式		■■■■■	内訳第1号
複合工	1	式		■■■■■	内訳第2号 ※ 複合工の全額を管材費として計上する。 管: ■■■■■
試運転調整費他	1	式		■■■■■	内訳第3号
撤去工	1	式		■■■■■	処: ■■■■■
処分費	1	式		■■■■■	内訳第4号 ※ 処分費の全額を処分費として計上する。 処: ■■■■■

# 本工事内訳書

頁0005

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
【直接工事費計】				■■■■■	
共通仮設費率額	1	式		■■■■■	■■■■■*0.1013
【共通仮設費計】				■■■■■	
【純工事費】				■■■■■	
現場管理費率額	1	式		■■■■■	■■■■■*0.337
【現場管理費計】				■■■■■	
【工事原価】				■■■■■	
一般管理費率額	1	式		■■■■■	■■■■■*■■■■■
【調整前工事価格】				■■■■■	

## 本工事内訳書

頁0006

## 施工内訳表

式

## 施工内訳表

式

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
アンスラサイト更新 360L、有効径1.0mm、均等係数1.4以下	2	基	220,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管:[REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
マンガン砂更新 1000L、有効径0.6mm、均等係数1.4以下	2	基	410,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管:[REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
支持砂利更新 支持砂利2-4mm 80L 4-6mm 80L 6-15mm 80L 15-25mm 80L	2	基	80,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管:[REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
マンホールパッキン、表洗ノズル、集水ストレーナ更新 マンホールパッキン 600A JIS5K 1枚 マンホールパッキン 450A JIS5K 1枚 SUSボルト、ナット、ワッシャ	2	基	250,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管:[REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
上記規格 表洗ノズル 樹脂製 25Aねじ込み 4個					
上記規格 集水ストレーナ 樹脂製 スリット式ねじ込み 24個					
【合計】	1	式		[REDACTED]	

## 施工内訳表

式

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
試運転調整費	2	基	280,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価
簡易水質分析費(現場測定) 濁度、色度、pH、残塩、マンガン、鉄	2	基	200,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価
ろ材活性化作業費	2	基	500,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価
【合計】	1	式		[REDACTED]	

## 施工內訣表

式

# 単価調書

頁0011

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
【材料費】					
ろ材、表洗ノズル、集水ストレーナ 輸送距離350km 工場～現場	2	基	160,000		阿賀町上下水道課調査単価
ろ材活性化作業費	2	基	500,000		阿賀町上下水道課調査単価
簡易水質分析費(現場測定) 濁度、色度、pH、残塩、マンガン、鉄	2	基	200,000		阿賀町上下水道課調査単価
試運転調整費	2	基	280,000		阿賀町上下水道課調査単価
【処分費】					
産業廃棄物処分費(ろ材) 汚泥 撤去用4t吸引車両含む	1	式	454,000		阿賀町上下水道課調査単価 処: ■ ■ ■ ※全額を処分費として計上する。
産業廃棄物処分費(廃材) 廃プラ 収集運搬車両含む	1	式	25,000		阿賀町上下水道課調査単価 処: ■ ■ ■ ※全額を処分費として計上する。
【管材費】					

# 単価調書

頁0012

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
アンスラサイト更新 360L、有効径1.0mm、均等係数1.4以下	2	基	220,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管: [REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
マンガン砂更新 1000L、有効径0.6mm、均等係数1.4以下	2	基	410,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管: [REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
マンホールパッキン、表洗ノズル、集水ストレーナ更新 マンホールパッキン 600A JIS5K 1枚 マンホールパッキン 450A JIS5K 1枚 SUSボルト、ナット、ワッシャ	2	基	250,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管: [REDACTED] ※全額を管材費として計上する。
支持砂利更新 支持砂利2-4mm 80L 4-6mm 80L 6-15mm 80L 15-25mm 80L	2	基	80,000	[REDACTED]	阿賀町上下水道課調査単価 管: [REDACTED] ※全額を管材費として計上する。

令和7年度

室谷浄水場急速濾過機ろ材等入れ替え工事

数量計算書【総括】

## ろ材入れ替え

## 数量計算書



室谷浄水場急速濾過機ろ材等入れ替え工事  
数 量 計 算 書

数量計算書集計表 (2/6)

# 複合工集計表

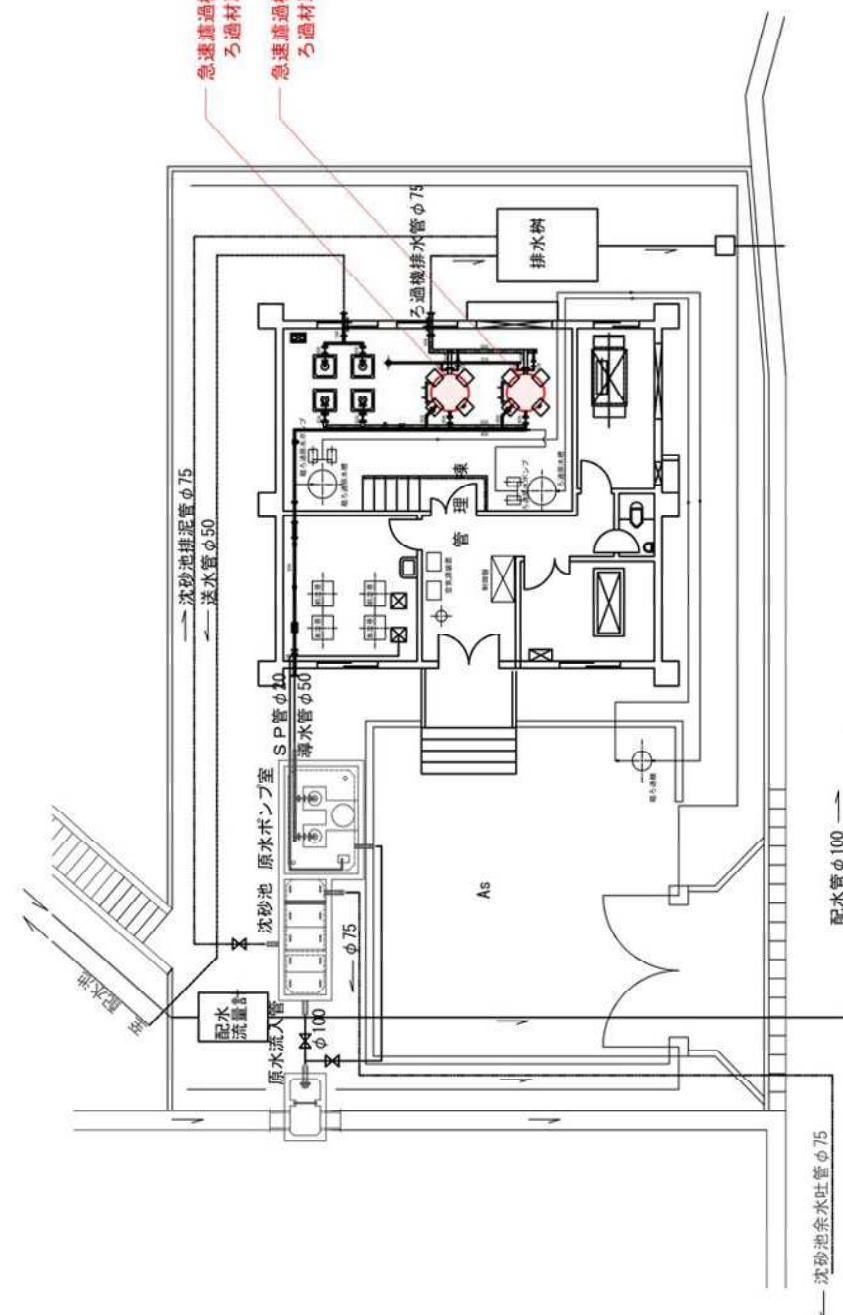
## 複合工集計表

## 複合工計算書

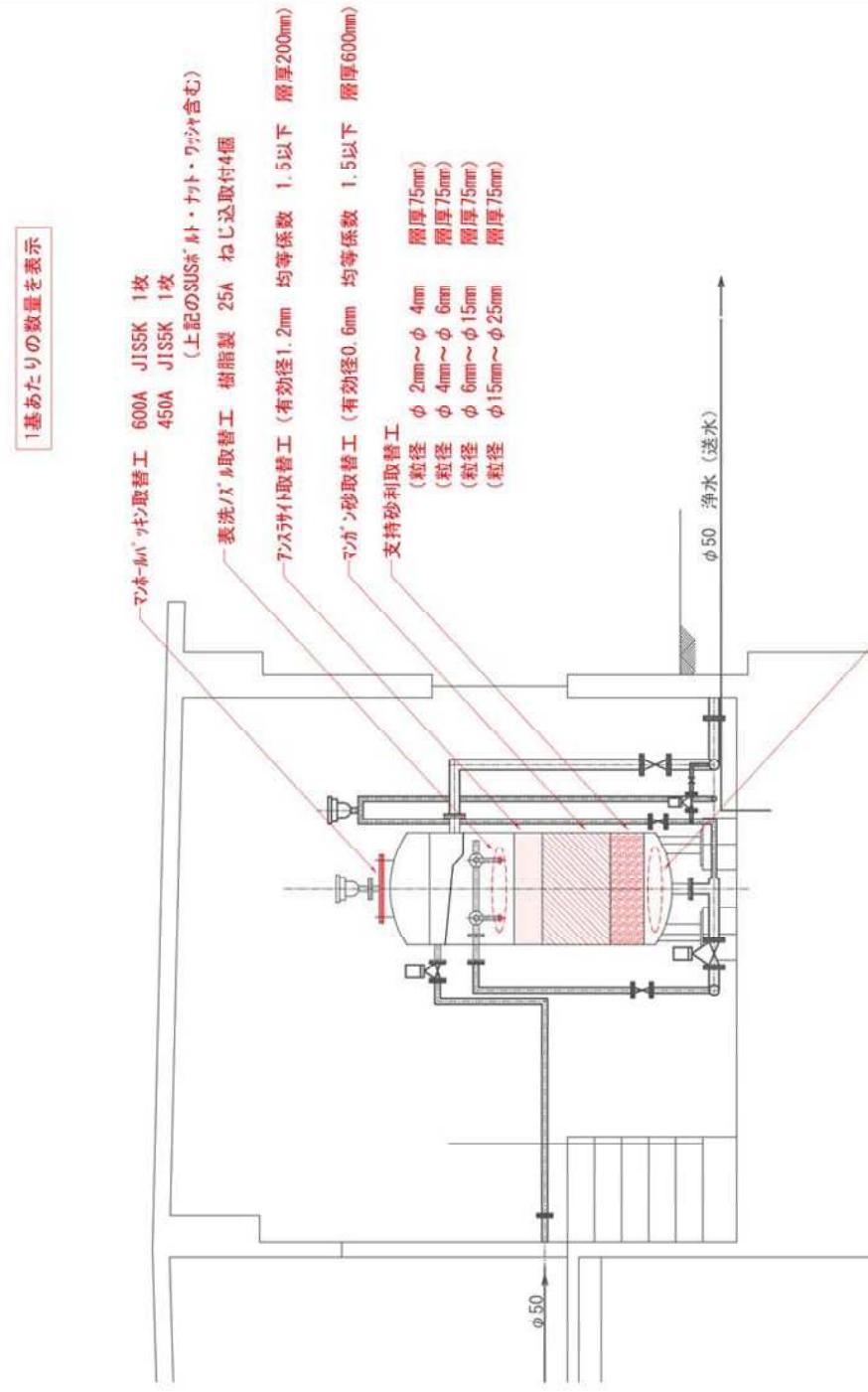
添付図(1)	
アンスラサイト	$0.200 \times (0.5^2) \times \pi = 0.157 \text{ m}^3/\text{基}$
ろ材	$0.600 \times (0.5^2) \times \pi = 0.471 \text{ m}^3/\text{基}$
支持砂利2-4mm	$0.075 \times (0.5^2) \times \pi = 0.059 \text{ m}^3/\text{基}$
支持砂利4-6mm	$0.075 \times (0.5^2) \times \pi = 0.059 \text{ m}^3/\text{基}$
支持砂利6-15mm	$0.075 \times (0.5^2) \times \pi = 0.059 \text{ m}^3/\text{基}$
支持砂利15-25mm	$0.075 \times (0.5^2) \times \pi = 0.059 \text{ m}^3/\text{基}$
集水ノズル G3/4スリット式 樹脂製	1.000 式
表洗ノズル 25A 樹脂製	1.000 式
マンホールパッキン 600A, 450A 5t EPDM	1.000 式
	合計 0.000 (m <sup>2</sup> )

# 室谷浄水施設 淨水場急速濾過機ろ材入替工事 計画図

急速濾過機配置平面図



急速濾過機立面図



1基あたりの数量を表示

室谷浄水施設 浄水場急速濾過機ろ材入替工事計画図			
縮尺	図示	画面全	業の 1
測量	年 月 日	主 任 工事 技術者	
設計	年 月 日	主 任 技術者	

令和 7 年度 工事番号 号  
阿賀町 室谷 地内

室谷浄水施設  
浄水場急速濾過機ろ材入替工事計画図  
1

小学校